



俺と黄色い犬 とラーメン

book-fukunokami

俺と黄色い犬とラーメン

「俺もラーメンを食うんだ」

俺はパンダの柄の犬に向かって叫んだ。

「ラーメンか？」

「そうだ、ラーメンだ」

ボン、音がして犬は黄色い犬になった。

「良かった、良かった、黄色い犬になって良かった」

「俺は良くない良くないぞ、わん」

「さあ、ラーメンを食いに行くぞ」

俺達はラーメン屋に行った。

「ちょっと、ちょっと、犬はだめです」

犬はだめだった。

「俺一人で食ってくる」

「お前だけで食う気か？」

「そうだ、俺だけで食う」

ハッ、まずい、ここで、食うきだ、と言ったら、食うき、くうき、空気、で、黄色い犬が空気になっちまうかもしれない、あぶないところだった。